

プラチナ社会実装化モデルの開発・試行と普及

(事業ID:2023013586)

報告書（公開版）

2024年3月

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

(団体ID:0645423)

はじめに

- 本報告書は、日本財団殿より助成頂いた「プラチナ社会実装化モデルの開発・試行と普及」の成果を取りまとめたものである
- プラチナ構想NWでは、「地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能にする社会」をプラチナ社会と定義し、約400組織・人に及ぶ会員とともに 強い“覚悟と決意”を持ち、その具現化・社会実装に日夜励んでいる。
- 本事業にて「プラチナ社会実装化モデルVer.1」を開発したが、これを共通言語・基盤とし、会員を始めとする“仲間”達とともに、「プラチナ社会」具現化・社会実装加速、拡大が可能となった、と確信している。
- 次年度以降、まずは日本全体をプラチナ社会に、そしてアジア・世界への展開に鋭意取り組んでいく。貴財団助成による成果の深化、拡がりに、是非、ご期待頂きたい。
- 改めて、今年度助成への御礼を心より申し上げるとともに、引き続きの助成・協働を心より願います次第である。

目次

1. 既往学術知見と拠点レビューフレーム

[1.1 既往学術知見](#)

[1.2 拠点レビューフレーム](#)

2. プラチナ10拠点（プラチナ大賞受賞地域等）レビュー

[2.1 プラチナ拠点特長概観](#)

[2.2 10拠点レビュー](#)

3. プラチナ実装化モデル仮説（Ver.0.9）と試行

[3.1 拠点レビューを踏まえたモデル仮説と試行設計](#)

[3.2 モデル仮説](#)

[3.3 試行](#)

4. モデルVer.1

[4.1 試行により得た示唆とモデルVer.1構築のポイント](#)

[4.2 主体・アクティビティ群と多様・固有性への典型パターン](#)

[4.3 コ・ワーク/コ・ラーニングプロセス](#)

5. 拠点間連携・相乗化シナリオ・モデルと最終目標に向けたロードマップ

[5.1 プラチナ新産業創出具現化へのステップ](#)

[5.2 戦略アクション－実装加速と横展開、拠点間連携/相乗化へ](#)

[5.3 次年度活動の重点と目指す姿へのロードマップ](#)

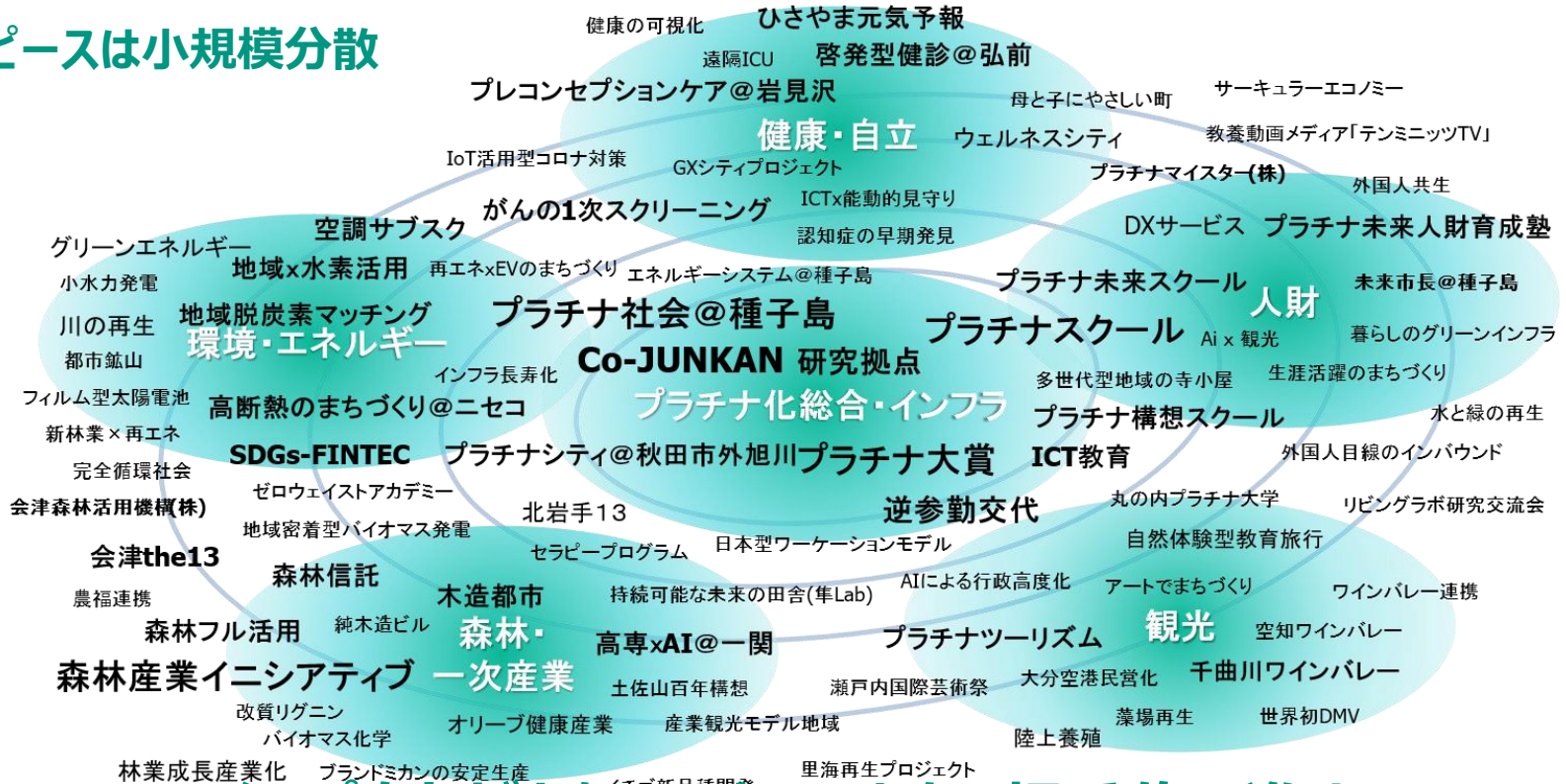
1. 既往学術知見と拠点レビューフレーム

1.1 既往学術知見を踏まえた“プラチナ社会実装化モデル”定義

- 既往学術知見を踏まえ、「プラチナ社会実装化」を、「プラチナビジョン」の具現化に向け、意図を持って興す“社会レジームの変・進化”と定義する
 - プラチナビジョンとは「地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能にする社会」
 - 過去十数年に亘る活動を通じ、ビジョンを具現化するためのテーマの骨格、活動要素群を産み出してきた
 - これらを再現性をもって創出し続け、かつ大きなスケールで束ねることで産業化（「プラチナ新産業創出」）していくことが目標
 - “社会レジーム”とは、社会や技術を構成・維持する知識体系や慣習・制度・文化・産業構造等の複合システム、これらを意図を持って“プラチナビジョン”にフィットさせていくことが、「プラチナ社会実装化」である
- 「モデル」は、「プラチナ社会実装化」を意図を持って興こすために必要・重要な「主体/アクティビティ群」を記述するとともに、意図・意志を持つ人々の実践・共創を誘起し、身体知化を図るもの、として開発する
 - 「共通的な要素」+「多様・固有性（地域・テーマ、時代、意志等に依拠する）主要因、それに応じた選択肢例」を基本構造とする－既存学術知見を踏まえ、“モデル”には“論理性”はもとより、“規範性”“実効性”を具備させる
 - マニュアルでなく、多様・固有性ある活動を、実践者自らが構築する/我々と共創するためのツールとする
 - なお、「プラチナ産業創出」へは、①個々のプラチナプロジェクト・拠点創出、②横展開、③産業エコシステム形成、が必要となるが、本年度開発するモデルVer.1は「①個々のプラチナプロジェクト・拠点の創出」を対象とした
 - ②横展開、③産業エコシステム形成は、今年度は戦略・アクションを設計（5.）、次年度以降に実践に移す

プラチナビジョンを具現化するテーマ、要素群ープラチナ星雲図

ピースは小規模分散



インパクトがあり、できることを、相乗的に進める

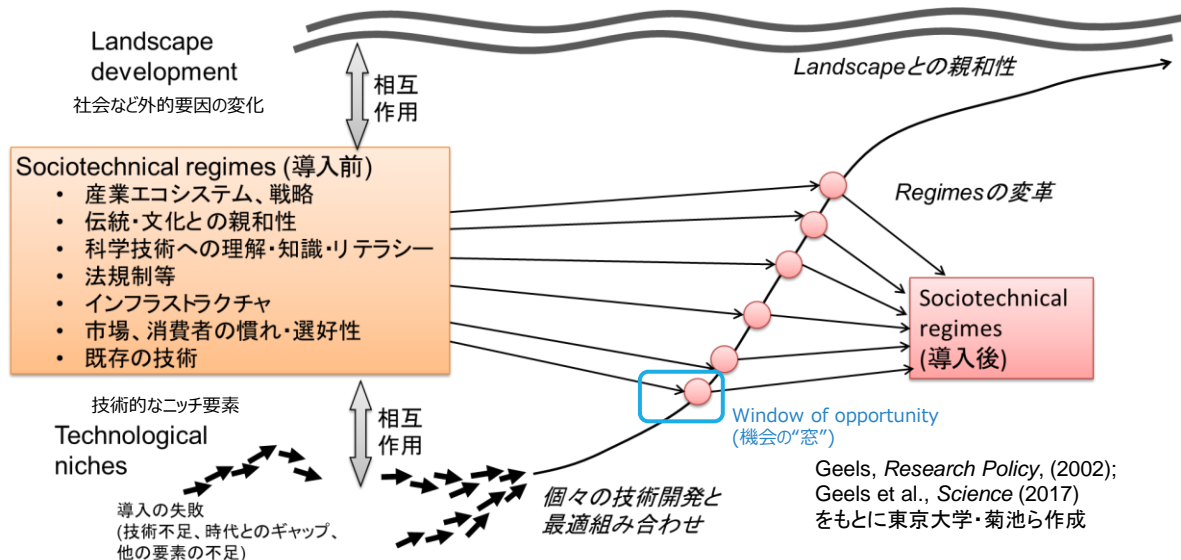
■ 以下は“技術浸透・普及”に対する記述・モデルだが、それを“プラチナ社会実装化”に置き換えて捉える

- 技術が社会に導入されるか否かは、“レジーム”（取り巻く状況や体制）の影響が大きい
 - 同じ技術でも社会や産業、関連技術の状態によって導入されやすさが変わる
 - 技術導入の影響によって、そのレジーム自体も変化していく

- 以下3つの要素が噛み合ったときに“窓”が開く

1. 個別技術の発展と増加
2. 既存システムの弱体化
3. 外圧による後押し

- レジームの現状を考慮しつつ、レジーム自体の変革も狙った産学公による活動が必要



1.2 拠点レビューフレーム

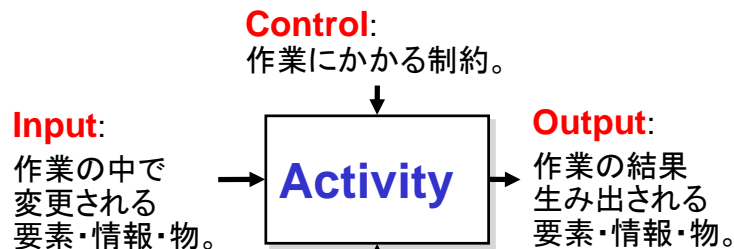
- 「規範性」「実効性」の両面でレビューを行い、そこから得られた知見を統合し、「アクティビティ/主体群」の抽出を試みる
 - 東大プラチナ総括寄付講座、SUNDREDが既に構築するモデル、実践知を最大限活用しつつ、最大速度・精度でのレビュー、仮説づくりを推進

<p>「規範性」 － IDEF0モデルを ベース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の4つのパラメータにより実装化の状況等を記述するフレームワーク <ul style="list-style-type: none"> ● 実装化のベース・前提の状況（要素・情報・物他）である「input」－ 諸活動で変化 ● 実装化に投入されるリソース・諸活動である「mechanism」 ● 実装化への諸活動の制約となる「control」 ● 実装化後の状況となる「output」 ● 複数の状況等、プロセスが連鎖し、実装化の全体を記述することになるが、本レビューでは、複雑化回避・共通要素抽出等のため、概ね一つの状況等・プロセスに集約し、整理・分析を実施
<p>「実効性」 － 新産業 共創プロセスを ベース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新産業共創プロセスを、大枠で2つのフェーズ（「基盤形成」「共創実践・実装」）、さらに夫々3ステップ（計6ステップ）で記述 <ul style="list-style-type: none"> ● 既存の実践知・経験も踏まえ、特に「基盤形成」フェーズの重要性に着目 ● 本レビューでは、「基盤形成」フェーズを「目的・アジェンダ共創」「クエストチーム組成」「エコシステム仮説構想」の3ステップ、加えて「共創実践・実装」フェーズの区分で、整理・分析 ● なお、本プロセスを加速する“場”（リビングラボ）モデルも加味し、整理・分析を実施

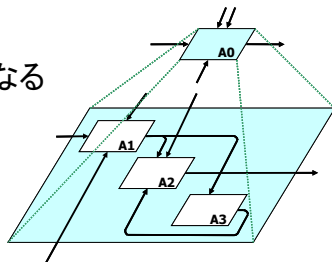
アクティビティモデル

IDEF0モデリング手法

4種類の情報によって
アクティビティの機能を表現

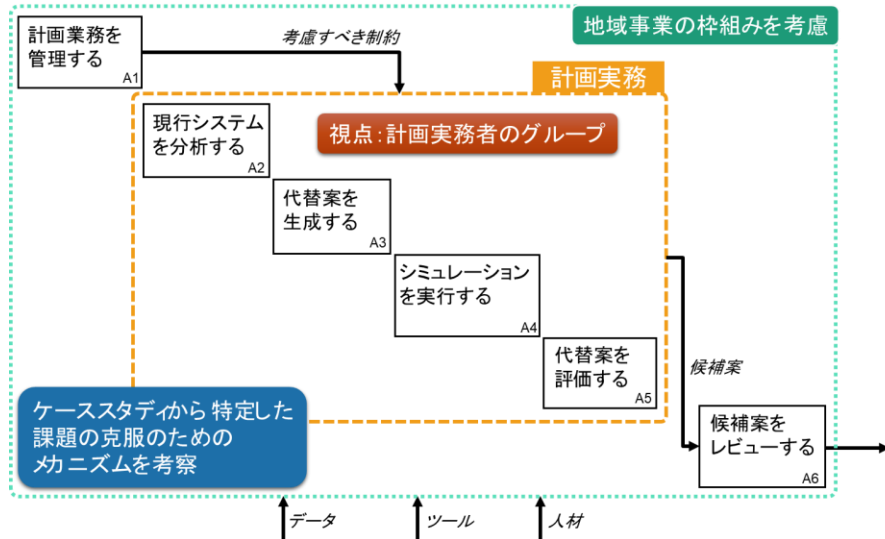


Mechanism:
作業を実行するために必要となるツール・情報などのリソース。



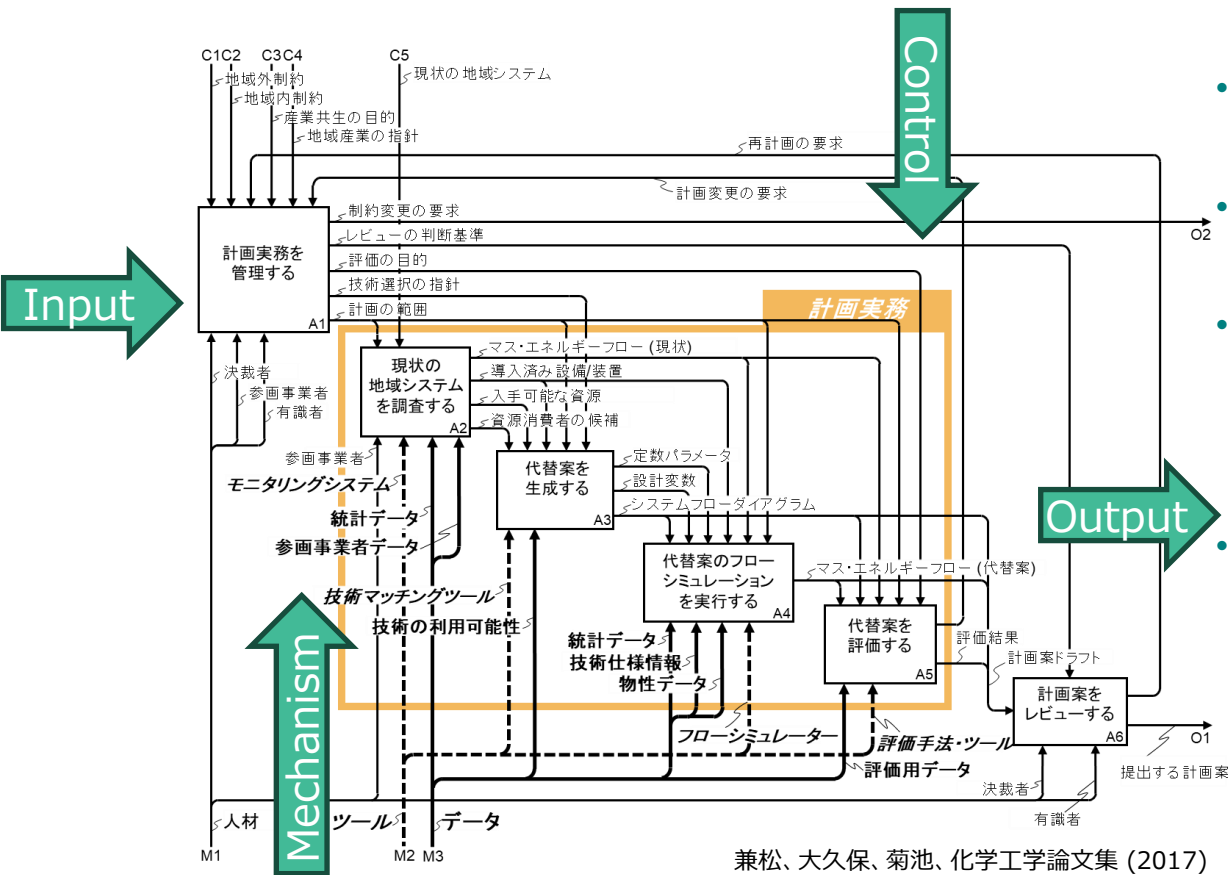
例：地域産業連携の計画プロセスのモデル

兼松、大久保、菊池、化学工学論文集 (2017)



活動プロセスの可視化

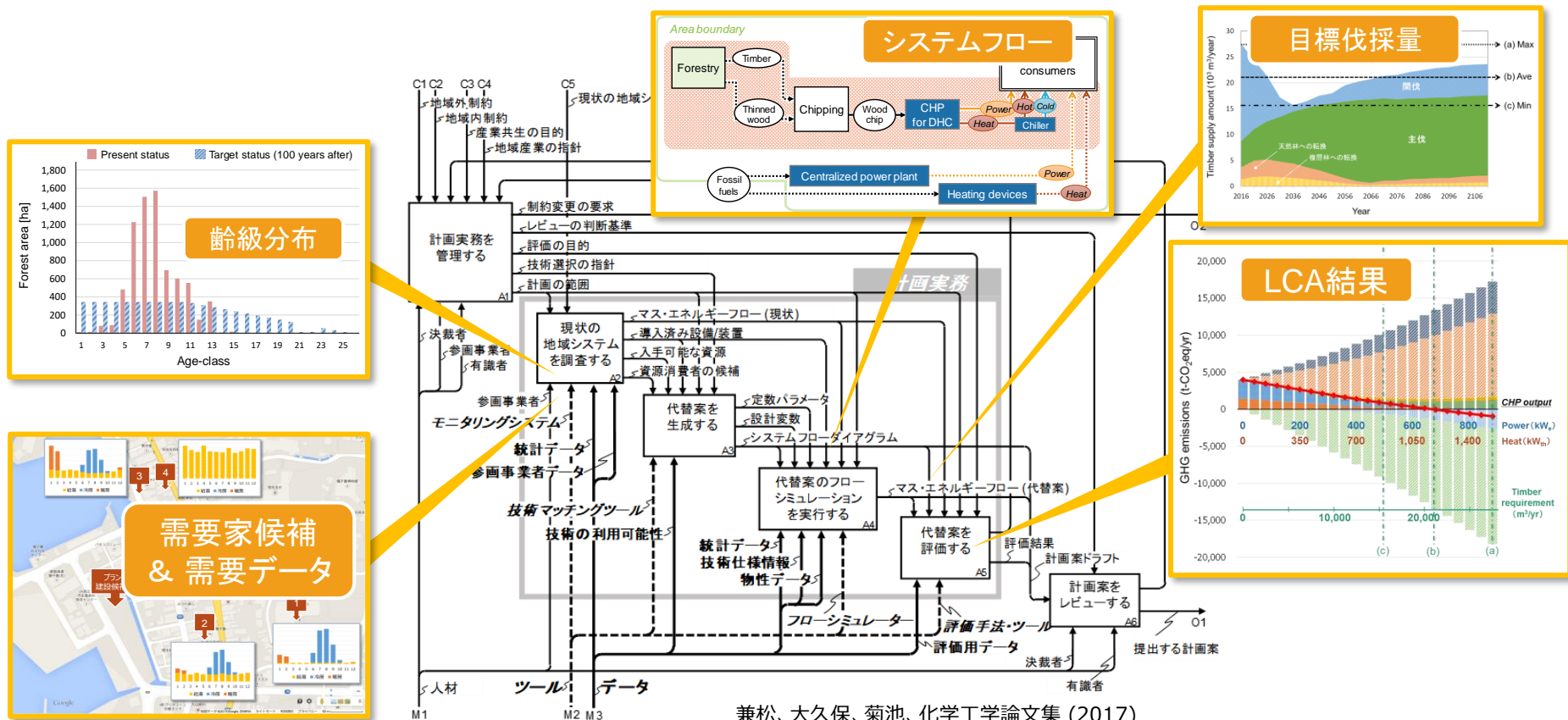
- 業務や作業の標準化
- 対象の明確化



兼松、大久保、菊池、化学工学論文集 (2017)

- ・ 階層表現により必要な詳細度まで分解、掘り下げ
- ・ 各アクティビティが持つ意味、機能を明確化
- ・ アクティビティの実行に必要なリソース(Mechanism)や考慮すべき制約(Control)を論理的に整理
- ・ 再現可能なモデルとして可視化

IDEFOモデル適用例 – 木質バイオマスエネルギー実装に関する事例



兼松、大久保、菊池、化学工学論文集 (2017)

“新産業共創プロセス”モデル概要 – 実効性モデルベース



新産業共創スタジオ
INDUSTRY-UP STUDIO

フェーズ1
オープンな対話を通じた仮説の共創

①目的の
共創

②初期チーム
の組成

③エコシステ
ム仮説の共創

きっかけとなるアイデアやSDGs、社会課題等の大目的から、プロジェクトのゴールとなり得る中目的を対話を通じて共創する

プロジェクトを自分ごととして推進する「勇者」をあぶり出し、「勇者」を中心に当該テーマに関連する多様なメンバーから構成されるチームを組成する（「クエストチーム」）

「クエストチーム」を中心に新産業のエコシステム（ソリューションの繋がり）の仮説を共創する

フェーズ2
仮説を実現するためのプロジェクト推進

④プロジェク
ト組成・
予算化

⑤「トリガー
事業」の
創出・育成

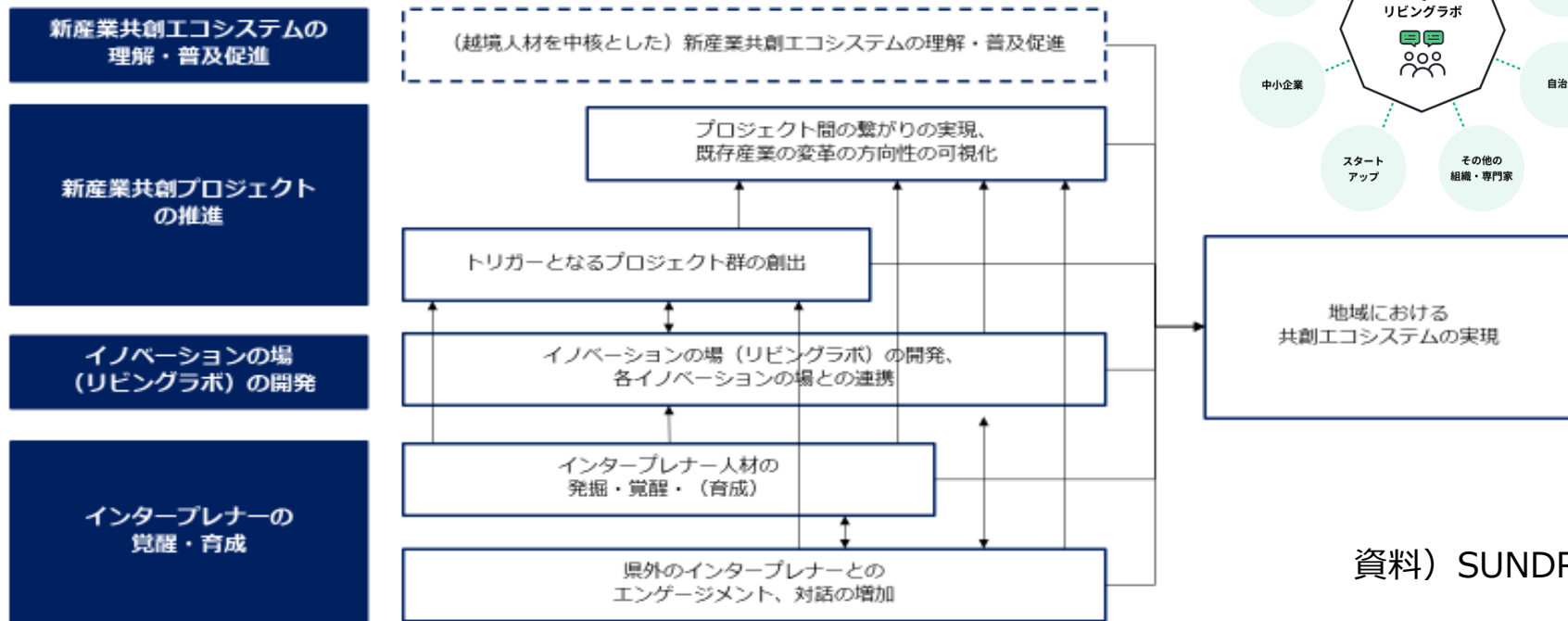
⑥エコシステ
ム構築の加速

エコシステムの構成要素となる企業等を集め、共創プロジェクトを設計し、仮説の詳細化を進めていく

エコシステム構築にあたって最初に立ち上げていくべき事業（トリガー事業）を特定し、事業の創出・育成を行う

「トリガー事業」の確立・成長を加速するとともに、エコシステムの構築を各社の事業推進を通じて加速していく

LIVING LAB – 新産業共創型/インタープレナーズリビングラボ



資料) SUNDRED

2.プラチナ10拠点（プラチナ大賞受賞地域等）レビュー

2.1 プラチナ拠点特長概観・分析

■ 拠点レビューに先立ち、既往資料（プラチナ大賞応募・公開資料）ベースで、プラチナ拠点を概観

- 恣意性を挟まない形、テキストマイニング・AI分析により、主要キーワードを抽出・整理

<活動の拠点・特長>

- **地域の取り組み**：「地域」という単語が頻繁に出現しており、地方自治体や地域社会に関するプロジェクトやイニシアチブが強調
- **協働と連携**：「連携」「協働」「共生」「協議」など、さまざまなステークホルダー間の協力とパートナーシップの重要性が強調

<活動テーマ・領域－特に多数、目立つもの>

- **環境・持続可能性**：「環境」「バイオマス」「SDGs」「エネルギー」「リサイクル」「CO2」など、環境・持続可能性に関連する取り組み
- **その他社会的問題・課題**：「少子化」「過疎」「高齢」「貧困」などの社会的問題・課題を取り上げ
- **教育と人材育成**：「教育」「学校」「人材」「能力開発」など、教育と人材育成に関わる取り組み
- **公共とインフラ**：「交通」「公共」「基本」「公共施設」など、公共インフラ整備・運用に関する取り組み
- **一次産業と地域資源**：「農業」「栽」「茶」「木材」など、一次産業（農業が多）や地域資源活用に関する取り組み
- **技術進化と産業**：「イノベーション」「データ」「システム」などの技術活用・進化、その産業への貢献に関する取り組み多

■ 拠点レビューに際しての留意点（概観・分析からの示唆）

- 取り組みは“地域”単位、様々なステークホルダー協働・連携・共創志向、なお、ややビジネス目線には欠ける感
- テーマ等については、“プラチナビジョン”具現化に関わる問題・課題、各地域特性等に応じて“地域事化”
（概ね6p.で示した星雲図の領域でカバー）

参考 ; 概観・分析対象地域

回	大賞・総務大臣賞	大賞・経済産業大臣賞活動テーマ・概要
1	海士町(島根県) 魅力ある学校づくり × 持続可能な島づくり ~島前高校魅力化プロジェクトの挑戦~	-
2	ヤマトホールディングス株式会社 地域に密着したヤマト流CSV「まごころ宅急便」	北九州市(福岡県) 都市間連携を通じたアジアのグリーンシティ創造
3	珠洲市(石川県) 「能登半島最先端の過疎地域イノベーション」~真の大学連携が過疎地を変える!~	積水ハウス株式会社 「5本の樹」で命あふれる笑顔のまちを
4	雲南市(島根県) 幸雲南塾(大人版)~若者チャレンジによる持続可能なまちづくりへの挑戦~	コマツ・石川県・石川県森林組合連合会(石川県) 地産地消型バイオマス利活用の推進と地方創生
5	見附市(新潟県) 「コンパクトシティの形成」~健やかで幸せに暮らせるまちづくり~	株式会社伊藤園 茶産地の育成を支援する「茶産地育成事業(新産地事業)」~遊休農地を茶の産地に~
6	養父市(兵庫県) 養父市の新たな挑戦!国家戦略特区を活用した新たな自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」	株式会社シェルター 「木造都市づくり」への挑戦-都市(まち)に森をつくる-
7	弘前大学大学院医学研究科 特任教授 中路重之氏・青森県・弘前市 健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現をめざす 産学官民一体型青森健康イノベーション創出プロジェクト	株式会社リクルート・有田市 株式会社リクルートと和歌山県有田市との2年間の取組(Cheers Agri Project IN ARIDA)
8	神奈川県 新型コロナウイルス対策に係る「LINE コロナお知らせシステム」「新型コロナ対策パーソナルサポート(行政)」「感染防止対策取組書」等を組み合わせた仕組みについて	Global Mobility Service株式会社・特別会員 関根秀昭氏 日本発 世界の貧困層・低所得層 17億人を救う金融包摂型 FinTech サービス
9	国立大学法人 北海道大学COI拠点・岩見沢市(北海道) 日本で一番母子にやさしい、市民が主役のまちづくり:日本初の健康経営都市岩見沢市の挑戦 ~新公共・新産業エコシステムを構築し、更なる持続的な進化、そして他地域展開~	三井住友信託銀行株式会社 森林信託事業
10	徳島県・高知県・阿佐海岸鉄道株式会社 道路と鉄道の「二刀流」DMV~世界初に乗りに行こう!~	岩手県・一関市(岩手県)・一関工業高等専門学校 すり足・ふらつきに着目した認知症予防・早期発見デバイス「D-walk」の開発について

参考 ; プラチナ拠点AI・テキストマイニング分析結果 – 抽出キーワード

受賞団体	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
No.	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語	抽出語
1	地域	地域	アジア	地域	街	地域	地域	平成	茶	地域	木造	健康	農業	対策	当社	健康	森林	DMV	検査
2	学校	取組む	環境	事業	庭	課題	バイオマス	地域	事業	事業	建築	連携	有田	新型コロナ	可能	母子	信託	地域	MCI
3	教育	サービス	都市	金沢大学	生産	実践	森林	年	産地	観光	都市	プロジェクト	年	感染	ローン	地域	林業	阿佐	認知
4	生徒	考える	企業	能登	住宅	チャレンジ	利用	年度	生産	トラバシー	耐火	企業	リクルート	LINE	金融	岩見沢	事業	鉄道	D-walk
5	取組み	高齢	技術	人材	裁	プラン	活用	施策	農業	トラバシー	技術	社会	課題	ウイルス	車両	調査	所有	運行	研究
6	島	社協	北九州	マイスター	中心	雲南	コマツ	市民	育成	運送	造	地域	就農	システム	義団	連携	活用	鉄	予防
7	高校	買い物	事業	珠洲	年	塾	産業	都市	地域	利用	木	診る	プロジェクト	社会	サービス	自治体	管理	導入	受ける
8	人	活用	炭素	年	自然	解決	活性	利用	当社	交通	部材	開発	拡大	コロナ	社会	出生	受託	可能	可能
9	高齢	検討	センター	研究	楠	塾生	林業	交通	社会	客	木材	データ	実施	行政	ドライバー	COI	課題	車両	社会
10	推進	見守る	海外	大学	緑化	若者	チップ	交流	年	市内	WOOD	研究	地域	お知らせ	創出	体面	可能	車両	評価
11	魅力	行う	ビジネス	里山	計画	取組	県内	市街地	茶園	市民	開発	健	開催	仕組み	機会	年	行う	観光	学生
12	社会	宅急便	現地	連携	事業	繋がる	組合	公共	農	養い	地方	青森	月	取組	サービス	施	走行	精度	
13	活動	利用	展開	里海	生態	住民	供給	整備	安定	仕組み	CO2	実施	地元	情報	経済	日本	西薬倉	徳島	保険
14	事業	取組み	プロジェクト	プログラム	当社	事例	次	コミュニティ	可能	輸送	地域	ビッグデータ	参加	発信	自動車	交通	開発	開発	
15	日本	商品	協力	養成	在来種	人材	石川	運行	品質	手段	当社	推進	新規	防止	MCCS	企業	地域	道路	既存
16	年	情報	行う	自然	生きもの	可能	運用	施設	持続	住民	COOL	創出	制度	パーソナルサポ	ファイナンス	子ども	経営	海岸	機能
17	連携	全国	支援	受講	全国	削減	削減	活用	活用	新たな	建物	展開	年度	医療	機関	表現	産業	果樹	高い
18	育成	スーパー	地域	里山	植木	組織	推進	歩く	雇用	課題	日本	医療	販売	抑制	FinTech	開始	収益	維持	指導
19	学習	ニーズ	実施	修了	本	組織	地方	コンバクト	目標	実施	RC	解析	活用	サービス	活用	賃	増加	持続	人
20	行う	若手	推進	珠洲	連携	組織	年	計画	原料	パス	構造	経済	解決	神奈川	提供	研究	委託	卒校後	地域
21	全国	支援	日本	進める	お客様	組織	回る	行う	栽培	移動	課題	参画	行う	起動	事業	整備	地域	ディプランニング	
22	展開	社会	目指す	可能	市場	組織	整備	市	伊藤園	登録	環境	課題	講座	状態	制御	構築	相続	株	一関
23	民間	新たな	輸出	奥	設備	経営	取組み	施設	旅客	高齢	課題	評価	推進	有効	物流	展開	教育	公共	教員
24	課題	地元	有する	月	生物	組織	地産地消	シティ	価値	ニーズ	社会	増進	取組み	利用	支払い	行う	実施	高知	推定
25	子ども	注文	連携	市内	ニーズ	組織	課題	拠点	運営	関係	運行	KES	大学	信用	データ	妊娠	成長	収入	判別
26	住民	展開	ノウハウ	支援	拡大	組織	型	進める	規模	貢献	活用	モデル	取組	旅路	新しい	人々	医療	(株)	鉄道
27	人材	民	活動	スタート	高い	組織	効率	暮らし	契約	対応	関連	取得	野	効果	社会	スキル	南方	AI	
28	会	ヤマト運輸	システム	世界	課題	社会	組織	三者	パス	日本	短距離	規模	年	参画	事業	GMS	好成績	経済	チェンジ
29	持つ	課題	ニーズ	過渡期	農業遺産	全国	使用	健康	農地	ビル	ルート	開発	市民	実現	改善	北海道大学	受益	早期	
30	塾	見る	モデル	産業	活動	調査	組織	体制	健康	SDGs	活用	加工	実現	市役所	登録	開発	データ	経営	データ
31	自治体	自治体	リサイクル	共生	農	組織	地元	生活	開発	公共	日	主体	住民	日	公共	年	木材	持続	学校
32	新たな	進める	課題	現在	提案	組織	利	人口	新たな	組織	三次元	新たな	商談	連携	所得	産業	検討	自体	向上
33	海外	提供	国際	行う	豊か	組織	エネルギー	活動	世界	路線	事業	生活	農地	拡大	世界	取組み	持続	東宮	高齢
34	観光	連携	社会	展開	野島	組織	教育	基本	需要	マイカー	需要	教育	有田	係る	利用	診る	集約	人客	高等
35	協働	展開	処理	育成	価値	組織	活動	形成	放棄	安全	森林	産業	スキーム	月	エンジン	仕組み	推進	全国	専門
36	月	価値	産業	自治体	家族	組織	間伐材	研究	遊休	関連	可能	検査	ブランド	原	システム	北海道	調査	提供	日常
37	授業	可能	一体	実施	規模	組織	繋げる	持続	環境	企業	自家用	拡大	目指す	ローン	開発	企業	拠点	村	東
38	農産	連携	関係	全国	実施	組織	効果	表現	環境	企業	自家用	弘前大学	意見	考え	新たな	パンデミック	見える	投資	被災
39	特に	確認	研究	特に	種	組織	取組む	本市	月	自治	山形	可能	管理	可能	働く	市	同村	利用	負担
40	夢	観点	構築	協働	協働	組織	力	運動	向上	社会	産業	解決	結果	協力	MSPF	市民	連携	JR	歩住
41	離島	企業	行政	設置	地域	組織	環境	可能	推進	団体	使用	貢献	貢献	原産地	実施	データ	持続	安定	運転
42	キャリア	県内	貢献	組織	認識	組織	上記	機能	創出	関係	関係	使う	COI	呼称	設計	リース	新たな	解決	営業
43	コミュニケーション	孤独	国内	可能	安全	組織	全体	向ける	地区	有償	増加	インバウンド	向上	組み合わせる	連携	連携	金融	沿線	スコア
44	センター	今後	政府	確保	スタート	組織	創生	再生	年度	ネットワーク	全国	科学	取組む	対応	解決	課題	資源	活性	デバイス
45	可能	産	平成	環境	デザイン	組織	促進	策定	課題	安心	展開	効果	出荷	年	技術	健	取得	技術	モデル
46	過渡	事業	ほか	認定	ネットワーク	組織	燃料	省長	活性	可能	年	総務	上がる	必要	結果	状況	関係	座	
47	海士	事例	インドネシア	イフガオ	解決	組織	連材	高齢	技術	区域	S	発達	成果	LINE	仕事	在宅	全体	取組む	患者
48	活かす	回る	グリーン	ネットワーク	確認	組織	連材	事業	機関	高齢	解決	減小	事業	クラスター	実現	出産	関係	手段	関心
49	経験	推進	スツバヤ	運営	環境	組織	関係	社会	制作	困難	各地	事業	企業	回答	可視化	職	長期	従来	期待
50	構想	生活	活かす	計画	関係	組織	県	推進	貢献	細か	業者	寿命	調査	規模	株式会社	統合	必要	新しい	靴

2.2 10拠点レビュー – 対象拠点とサマリ

産業領域区分	地域・会員	主なキーファクター・キーワード
森林 ・ 一次産業	住友林業株式会社株式会社アルファフォーラム (福島県喜多方市他)	商工会議所の重要性、スピード感 キーマン（地元の旗振り役、裏回し）、参加者のコミットメント、先進地視察、イメージ共有
	大館市（秋田県）、 大館北秋田地域林業成長産業化協議会	地域間協力、業者と自治体の参加と協働、地域課題の理解、企業とのコミュニケーションと マッチング、補助金の活用
健康 ・ 自立	国立大学法人 弘前大学大学COI拠点 (青森県弘前市他)	地域特化の医療政策、横断的な協力、データ収集と認知度向上、多様なステークホルダー の関与、異なる専門分野や他大学との協力、10年間の長期計画、マネジメントサイクル、定 期的なミーティング、コミットメントの担保
	国立大学法人 北海道大学COI拠点 (北海道岩見沢市)	地域の社会的・個人的課題の解決、長期的な視点、ポジティブな課題の追求、多様なアプ ローチ、人口減少と産業の変化を認識し、それを踏まえた取り組み、他人との出会いと交流 の重要性、協力関係の構築。
環境 ・ エネルギー	北九州市（福岡県）	北九州市の環境技術とその海外輸出展開、専門組織と物理的近さによる相談の容易さ、 情報収集体制、先読み能力、及び資金獲得戦略、公害克服のナラティブと市民の環境意 識の高まり
	西之表市・中種子町・南種子町（鹿児島県）	研究者、企業、Co-learning、サトウキビ、グリーン転換フォーメーション（GX）、公共交 通、熱・電需給システム、バイオ燃料、バイオケミカル、実証実験、中高生、大学生、EV化 プロジェクト立ち上げとリーダーシップ、地域特化プロジェクト、文化的・芸術的取り組み、チ ーム構成、メンバーの独立性とスキル活用、「妖怪を世界へ」というコンセプトの浸透、ターゲット 市場とプロモーション
観光 (文化/交流)	小豆島ヘルシーランド株式会社	
人財／総合	海士町（島根県）	唯一高校廃校危機をきっかけに、ネガティブさをポジティブ・魅力に変える活動を総出で推進 徹底した横串・相互相談、信頼の仕組みを基盤
	雲南市（島根県）	若者育成塾から、街を挙げての若者チャレンジ、企業チャレンジなどの進化、継続 塾一期生を核に多様性を持ったチームが活動牽引（火の人・土の人・水の人・風の人）
	富山市（富山県）	コンパクトシティのビジョン、職員・市民との対話、継続的、地域性の強み、公共交通、実験 的なマインドセット、柔軟にプロジェクトを推進、成功体験、モチベーション維持

10拠点レビューから得られた示唆 – 東大/SUNDRED実践知も加味

- 共有・共感し得る未来ビジョン・アジェンダの共創
 - 地域固有/本質性をベースとしたビジョン、アジェンダをコミュニティで洗い出し、個々には自分事化
 - 併行して社会的な意義づけと未来ビジョン具現化へのエコシステムを構想
 - 外部専門人材を交えた対話による相対化、アジェンダ進化、エコシステム構想が有益
- 初動を興し、自律的・情熱的に進めるコアチームの組成
 - 強い課題意識の下、属性・専門を超えて「試行錯誤」を行う「探索型」人材・チーム・活動を組成
 - 目的起点での越境人材（インタープレナー）、勇者・賢者・熟練者など多様な特長を持つ人材で構成
 - 課題自体を機会、チャレンジテーマと捉え、課題を域外から人を集める呼び水に
- ビジョン・アジェンダ具現化への文化・体制づくり
 - 特に初動・初期段階におけるコアチーム等の「探索」活動の受容、支援必須
 - 例えば、自治体がオープンでフレキシブル、部局を超えた連 携 など
 - 「深化/実務」を担う人材・専門チーム、実装に必要な資源を幅広く、柔軟に調達
 - 例えば、助成金申請書類作成に長けた人材がいる など
 - 自治体、企業、大学、専門機関、市民、文化・芸術関係者等、多様性ある実装/利害関係者が集うコミュニティ、協働構築 – 特に“地域外”関与者、若者が重要、特定の組織への偏在回避も重要
- 早期具体のプロジェクト立上げと5～10年スパンの中長期視点・マネジメントサイクル構築両立
 - 中長期視点で、エコシステムを形成、実装していく
- 活動の持続性を担保する組織・事業づくり、次世代育成・巻き込み

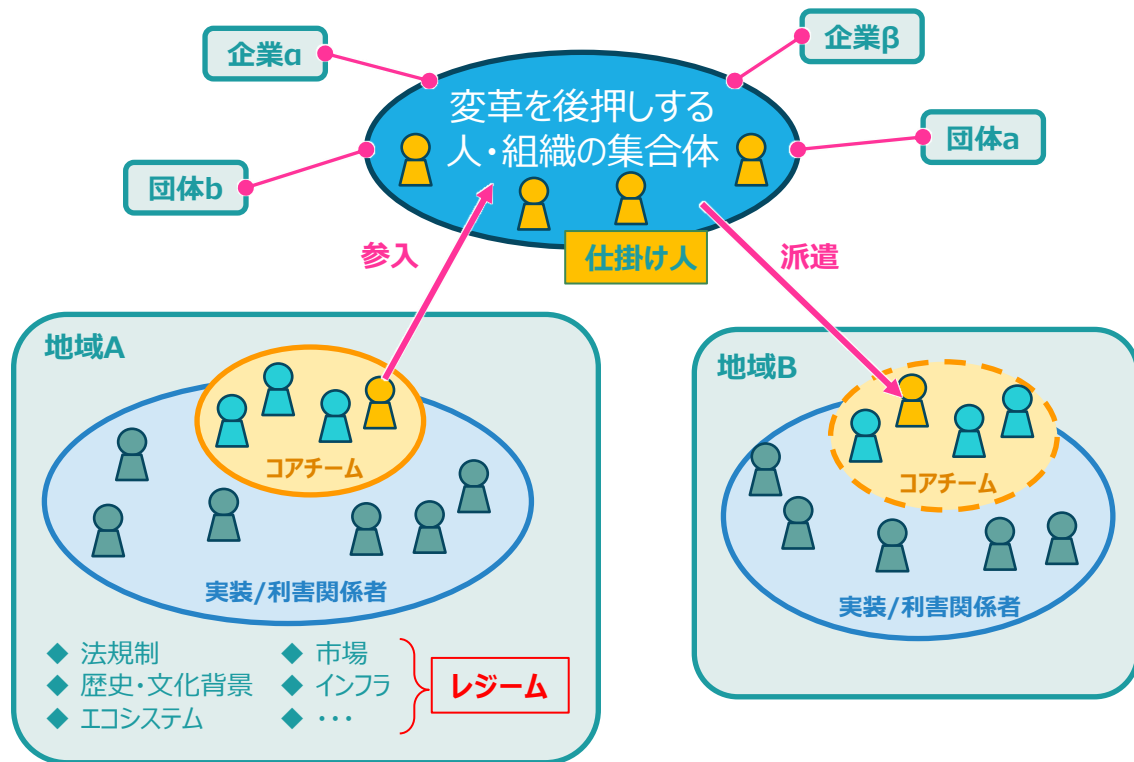
3.プラチナ実装化モデル仮説（ver.0.9）と試行

3.1 拠点レビューを踏まえたモデル仮説と試行設計

- 既述の通り、プラチナ社会実装化「モデル」の基本要件は、以下の二つとなる
 - ① 「プラチナ社会実装化」を意図を持って興こすために必要・重要な「主体/アクティビティ群」を記述
 - 「共通的な要素」+「多様・固有性（地域・テーマ、時代、意志等に依拠） 主要因、それに応じた選択肢例」が基本構造
 - ② 意図・意志を持つ人々の実践・共創を誘起し、身体知化を図る
 - マニュアル化するのではなく、「意図・意志」を持つ実践者にとっての“身体知”化を促す仕組みを組み込む
 - 「意図・意志」の喚起の仕組み、顕在・潜在的な主体の炙り出し、コミュニティ化は次年度に実施予定
- 10拠点レビュー結果から得られた示唆、加えて東大・SUNDREDチームの実践知等も加味し、一旦、モデルVer.0.9として「主体/アクティビティ群」仮説を設計した
 - モデルVer.0.9は次頁以降に記載
- これをもとに、異なる特性を持つ拠点等に対し試行、モデル仮説の検証、Ver.1へのアップデートを行った
 - ＜試行設計のポイント＞
 - 「主体/アクティビティ群」の必要十分さ・課題
 - 実践者にとっての実践、共創ツールとしての適性、課題

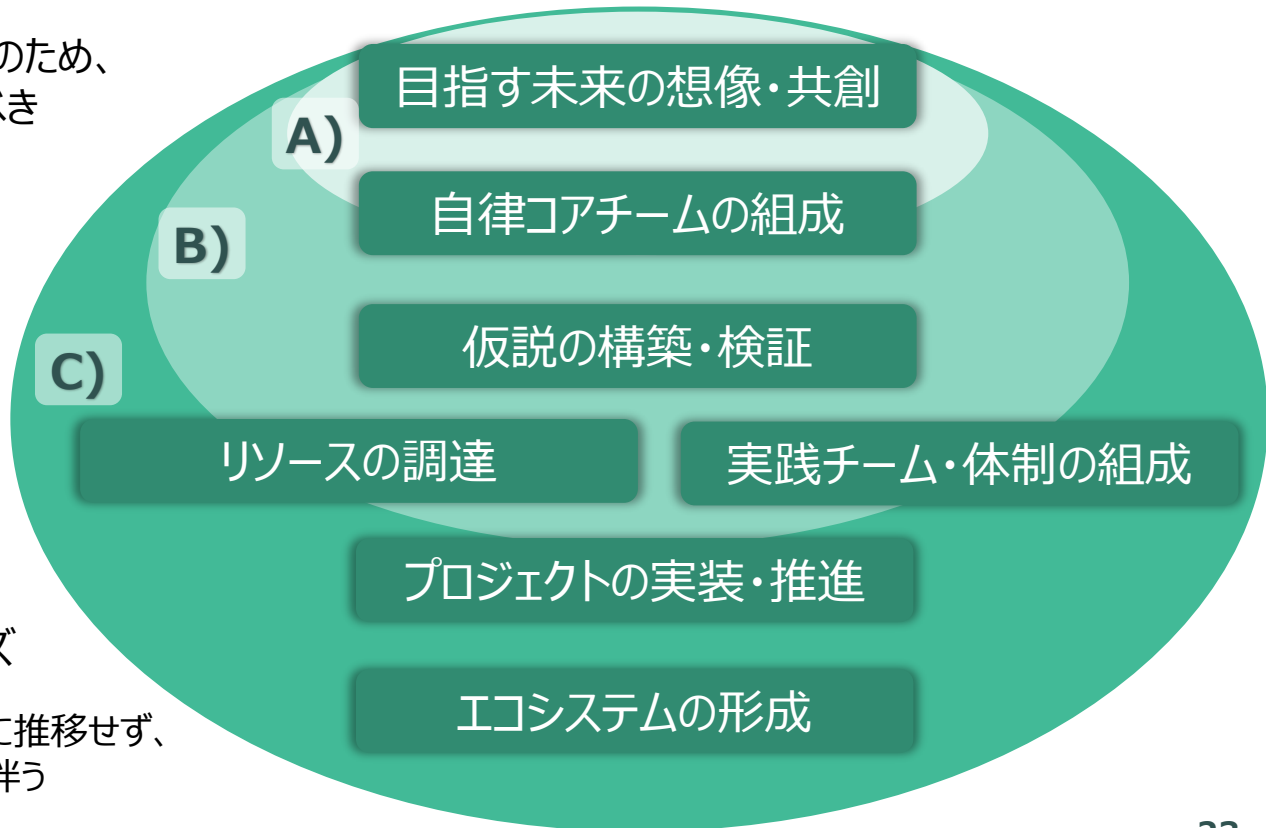
3.2 モデル仮説－主体群

- 地域の変革をより速く、高確度で起こしていくために、それを後押しする「**集合体**」を外部に組成していく必要がある
- 集合体では「**仕掛け人**」を集め、育成し、地域のプロジェクト推進の核となる「**コアチーム**」を組成・支援する
 - 地域からの参入もあれば、集合体からの派遣もある
- 「**仕掛け人**」がより高い確度で変革を起こすトリガーになるためのツール群の構築を目指す



3.2 モデル仮説－アクティビティ群

- (前頁提示の)
主体群の構成・状況創出のため、
加えて、各主体が実践すべき
アクション群を抽出
- 概ね、以下3フェーズで
アクティビティを区分・整理
 - A) コアチーム組成・活動
フェーズ
 - B) 実装チーム・態勢づくり、
始動フェーズ
 - C) プロジェクト実装・
エコシステム形成フェーズ



※上記フェーズは、必ずしもリニアに推移せず、
試行錯誤・行き来のプロセスを伴う

3.3 試行－拠点概要とポイント

- モデル仮説検証・アップデート、加えて今後のプラチナ社会実装化への仕込みとして試行を実施
 - 「北大COI/COI-NEXT & SIP」－拠点レビュー対象、健康・自立領域での優れた成果に照らし妥当性検証
 - 「岩手県/北いわて」－「森林産業イニシアティブ」での実装フィールド候補、新規取組み時の有用性等検証

対象	概要	試行のポイント
北海道大学 COI－NEXT &SIP	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象地域：北海道岩見沢市 ● 主体：岩見沢市 × 北海道大学 ● 取り組み概要： <ul style="list-style-type: none"> － 北海道岩見沢市の低出生体重児の比率を減らすために、起因である妊婦の栄養不足に関する啓発活動を行い、母子の健康改善に取り組む 	<p>COIで極めて優れた成果を出した（高評価を得た）「母子健康/低出生体重児問題」に対する活動を、モデル仮説との照合、妥当性を検証</p> <p>加えて、「健康・自立産業（プレコンセプションケア）」、「ライフデザイン/人材産業」の仕込み可能性を検討</p>
岩手県/北いわて	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象地域：北いわて ● 主体：地域林業・木材事業者 × 一戸町 × 岩手県 ● 取り組み概要： <ul style="list-style-type: none"> － 豊富な森林資源と林業・木材産業を軸として、 － 熱電供給事業や交流施設の運営や、植林・育林によるJ-クレジット活用により、資源と資金が循環する地域エコシステム構築 	<p>これから取組みを本格化させる拠点であり、新たに取り組む主体・関係者にとってのモデル仮説の有用性、ユーザビリティを検証</p> <p>加えて、「森林産業」におけるトリガーPJT・事業創出への仕込みを実施</p>

参考 ; 試行を通じた「アクティビティ群」評価と詳細化例

ステージ	説明	トライ項目	進捗
目指す未来の 想像・構築	起点となる問題・課題 やアイデアをきっかけに、 理念や価値観、行動 指針等を文章化する	□合宿、先進地視察など集中的に検討できる場を つくり、最少人数で徹底的に議論する	B
		□どのような思考・プロセスを元に進めていくのか初期 メンバーで認識を揃える	C
		□長期的なスパンでマイルストーンを設計する	C
リソースの調達	今自身が保有している 資源を整理し、明らか に不足している場合は 調達に動く	□資金調達先を調べ、資金調達スキルの高い人を 仲間にする	C
		□継続的に資金を調達する体制を構築する	C
自律コンソーシ アムの組成	自律的（リーダーシップ をシェアできている）な コアチームとそれを囲む ステークホルダーを含め た共同体を構築する	コミュニケーションの種類（議論、討論、対話、FB etc..）によって場を設計。特に対面の場を重視し、 いつでも対面でコミュニケーションが取れるようにする	C
		□どのような思考・プロセスを元に進めていくのか初期 メンバーで認識を揃える	C
		地域内の力学を考慮した手順で組織体制を構築 する	C
		チャレンジに寛容的な姿勢を保ち、「いいね」と伝える ・受け取ることができる環境をつくる	D
		志を確認し、敵となる可能性はあるが志が近い人 とは早い段階で味方に変える。一方で志が異なる 場合は早めに関係性を再考する	B
		巻き込む際に見せる絵を変える（言葉や態度、問 いかけを変える）	C

ステージ	説明	トライ項目	進捗
初期仮説の構 築・検証	エコシステム(ヒトモノカネ が持続的に循環し価値 を産むモデル)の仮説を 構築し、ユーザーの困っ ている点、ニーズの存在、 最低限の実現可能性を 検証する	初期仮説の設定には時間をかけずに、小さく早くやっ てみて検証する。	C
		試行の現場を設定し、深くコミットする（時期をつく る）	C
		デスクトップリサーチや定量リサーチより、ベンチマークを 設定し定性リサーチに時間をかける	D
		プロジェクトの実 装・推進	エコシステムを構築する 上でのプロジェクトを実装 する マイルストーンを設定しプ ロジェクトを推進する基 盤を整え、動き始める
プロトタイプ 形成	エコシステムにおける実 装可能なプロトタイプ(小 さく早くやってみる)を 定義し、実装する	定期的ユーザーからのフィードバックを得る仕組みを つくる	C
		プロトタイプのフィードバ ックを踏まえ、エコシステ ムの構築をコンソーシア ムの拡大・推進を通じて加 速し、世の中に届ける	関連情報をキャッチアップできる状態は整え、コラボ レーションの可能性を探る 公共性を担保したエコシステムを構築する

- A) 十分できている
- B) 部分的にできている
- C) 認識しているが
未着手
- D) 認識していなかった

進捗がC、Dの
項目を重点的に
進めることで
取り組み加速
できる可能性

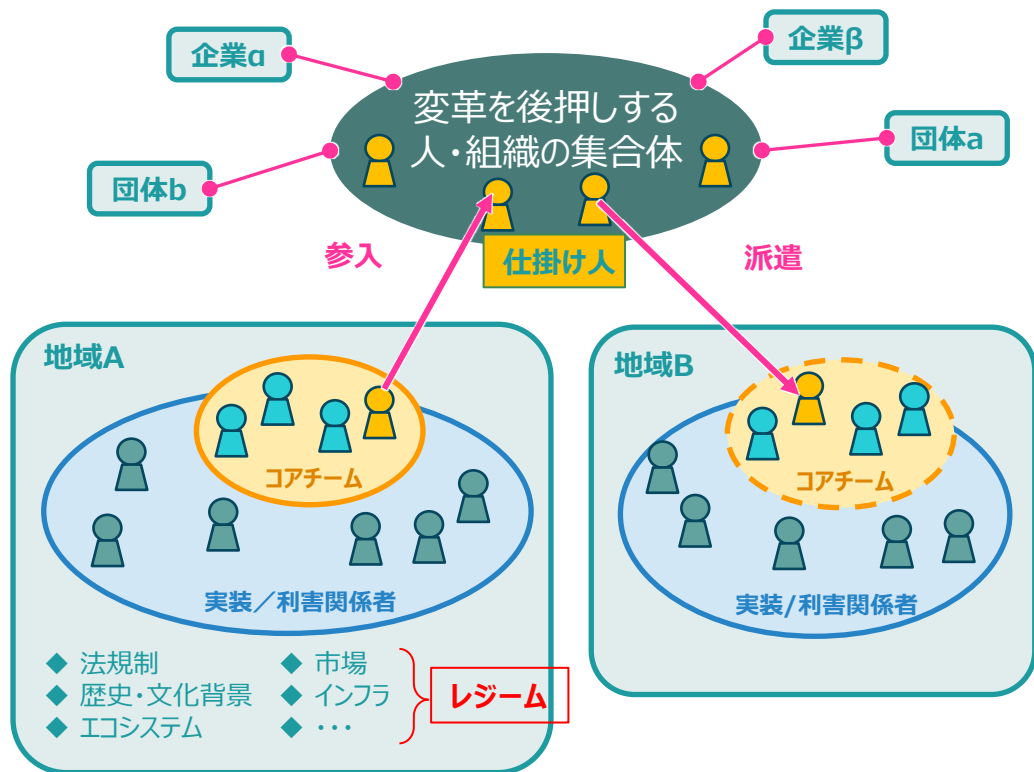
現地の評価：
実施者にとって
実践的で役立つ
ツールと感じた。

4. モデルver.1

4.1 試行により得た示唆とモデルVer.1構築のポイント

- 試行を踏まえ、以下のような確認・示唆を得た
 - 主体/アクティビティ群モデルは概ね妥当であり、実践主体にとって確認事項リストとしても有用
 - ただし、テーマ・地域等により構築・着手の順番、濃淡は異なる、リニアに進捗するのではなく試行錯誤のプロセスが必須、などは改めて確認、それらを念頭においた柔軟性ある構成、使い方が必要
 - モデル意図を理解し、スピーディに実践に移す、拠点等での共創を進めるためには、まずは「モデル作成・理解者」と「仕掛け人」「コアチーム」による“ワーク・コラーニング”のプロセス・仕組みを組み込むことが必要
 - 今回の試行では、東大プラチナ・SUNDREDチームが「モデル作成・理解者」かつ「仕掛け人」の役割を担った
 - プラチナ社会実装加速・拡大のためには、本チームによる活動展開とともに、「仕掛け人」「コアチーム」となり得る人材・チームづくりがキーとなる
- 上記を踏まえ、モデルVer.1としてのとりまとめ、次頁以降に記した
 - 主体群；主体に求められる要件等を記述
 - アクティビティ群；具体的なアクティビティを記述－“トライリスト”化（典型的な多様・固有アクティビティも抽出・例示）
※レビュー対象拠点等を援用しつつ、タイプの異なるプラチナ社会実装化への重点主体・アクティビティ群パターンを例示
 - 実践・共創/身体知化へのワーク・コラーニングプロセス・仕組みイメージを追記

4.2-1 主体群 ; 構成と要件



- 変革を後押しする人・組織の集合体
- プラチナ社会実装へのパッションを持ち、それに必要な多様な専門知・スキルを保有する
- 目的志向で、所属組織を越境し活動する（コアチームにも適宜参加、関与する）

- 地域・社会課題への強い問題意識を保有
- 様々な障害、所属組織等の制約なども超えて、自ら実践、地域・プロジェクト等を牽引

- プラチナ社会実装に必要な資源を保有
- コアチームとともに、社会実装を実践

4.2-2 アクティビティ群

目指す未来の想像・共創

A) コアチーム組成・活動フェーズ

自律コアチームの組成

仮説の構築・検証

B) 実装チーム・態勢づくり、始動フェーズ

リソースの調達

実践チーム・体制の組成

プロジェクトの実装・推進

C) プロジェクト実装・エコシステム形成フェーズ

エコシステムの形成

目指す未来の想像・共創

起点となる問題・課題やアイデアをきっかけに、リサーチ・内省を通してビジョンや価値観、行動指針等に落とし込む

トライリスト

- **合宿、先進地視察など集中的に検討できる場をつくり、最少人数で徹底的に議論する**
 - ビジョン合宿を多くこなした。3人で何度も繰り返す（拠点h）
 - 共同で事業を行うメンバーで熱供給事業の先端地であるヨーロッパへ視察に行った。この際に地域資源が循環する様子を目にするなど多くを学んだ。（拠点a）
- **どのような思考・プロセスを元に進めていくのか初期メンバーで認識を揃える**
 - まずは自分たちの手持ちのリソースやアセットでどこまでできるのか考えた（拠点b）
- **マイルストーンは1、2年単位ではなく、5、10年単位で仮置きする**
 - まずは3年間のロードマップを引きながらも、10年先も見据えていた。林業自体すぐにエコシステムを変えることは難しい（拠点b）

多様・固有なアクティビティ例 1

- **明確なゴールと、実現するためのプロセスモデルを最初の段階でつくりあげる（拠点b）**

多様・固有なアクティビティ例 2

- **明確なゴールは置かずに多角的なビジョンステートメントを設定（拠点d）**

リソースの調達

今自身が保有している資源を整理し、明らかに不足している場合は調達に動く

トライリスト

- **自分たちが使えるリソースを整理し、現状のリソースで進められる範囲を明らかにする**
 - 会社の自己資金で実施できる範囲を明らかにする。公的資金が必要でないことがわかった（拠点g）
- **資金調達先を調べ、資金調達スキルの高い人を仲間にする**
 - 専門部隊を置き、事業、補助金などの情報収集体制を構築した（拠点e）
 - 申請書作成に慣れている「作文の上手い人」が重要（拠点a,h）
- **継続的に資金を調達する体制を構築する**
 - 設立前にニーズ調査や事例検討を行い市民のコミュニティ財団を設立。事業者が次のステージに行けるように&人を巻き込む仕組みを作っていく必要があった。気持ちよく応援できる&最初の一步を踏み出しやすい仕組み。（拠点i）
 - 公設塾学習センターの運営は、月謝だけでは経済的な自立はできていない。学習センターの法人化とともに、新たな収益事業とファンドレイジングによる資金の安定化に取り組んでいく（拠点h）

自律コアチームの組成

目指す未来に共感する自律的な（リーダーシップをシェアできている）なコアチームを組成する

トライリスト

- **コミュニケーションの種類（議論、討論、対話、FB etc..）によって場を設計。特に対面の場を重視し、いつでも対面でコミュニケーションが取れるようにする**
 - 定例ミーティングは信頼関係をつくるタイミングでもあるので、基本的に対面で実施（拠点c）
 - 定例ミーティングを実施しない代わりに、コミュニケーションラインは詳細に整備した（拠点g）
 - 同じ建物に2つの関連団体施設あり。センターの設立(2012)と同時に場所をひとつにした。（拠点e）
- **地域内の力学を考慮した手順で組織体制を構築する**
 - 民間だけだと自治体の協力が得にくい。広域連携の場合、どの自治体が旗を振るかは重要。（拠点a）
 - 商工会が肝となった。商工会が賛成であれば、市町村は反対にくい。森林に目を向けるというのは今までなかったし、森林という公共財に反対する理由はなかった（拠点a）
- **チャレンジに寛容的な姿勢を保ち、「いいね」と伝える・受け取ることができる環境をつくる**
 - 肌感覚では寛容度が高くなり、新しいチャレンジに対して「あれは何だ？」と興味を持つ人が増えている。チャレンジが増えることで別のチャレンジへのハードルが下がっているかも。若者の姿を見て大人も刺激を受けている。（拠点h）

エコシステム仮説を構築し、ユーザーのペインポイント、ニーズの存在、最低限の実現可能性を検証する

トライリスト

- **仮説は、多様な立場のメンバーと議論を進めて作り上げる**
 - 初期仮説（循環の輪モデル）はアドバイザーである大学の先生とPLがつくり、地域事業者等に当てながらつくりあげた（拠点a）
- **仮説の検証は素早く行う**
 - プロジェクトを細分化し、まずは動かすことを心がけた（拠点a）
 - デザイン思考のプロセスでプロジェクトを進行した（拠点d）
- **試行の現場を設定し、深くコミットする（時期をつくる）**
 - 最初は広域連携、最終的には自身が管轄する自治体に絞って地域事業者と向き合った（拠点b）
 - PL自身が岩見沢市に住む、住んでる人が楽しめることをつくることを意識（拠点d）
- **デスクトップリサーチや定量リサーチより、定性リサーチ(生の声を聞くこと)に時間をかける**
 - 人が集まらなからうが、何度も地域で検診会を実施。実際の参加者と対話を重ねていった（拠点c）

コンソーシアムの組成

エコシステム形成の一步目となる、参加者がウィン-ウィンの関係を築けるようなグランドデザインを描く

トライリスト

- **志を確認し、敵となる可能性はあるが近い人は早い段階で味方に変える。一方で志が異なる場合は早めに関係性を再考する**
 - 本気の「上から目線」：地域住民がどうやったら喜ぶかを一緒に考えてくれないなら受け入れないという姿勢、地域のことを本気で考えてくれる企業であることを条件としている。継続的に一緒にやっていく志を大事にしたい。企業チャレンジが子供、大人につながるように意識している。慎重に見極めて進めている。困り込みたい相手にはこちらから積極的に働きかける。（拠点h）
 - 当初は拠点 b の市町村も巻き込んだ体制をつくっていたが、方向性が異なることがわかり、拠点 b 体で動く（拠点 b）
- **巻き込む際に見せる絵を変える（言葉や態度、問いかけを変える）**
 - 商工会が肝となった。商工会が賛成であれば、市町村は反対しにくい。市町村も商工会にお世話になっている。商工会同士の連携がなかった。森林に目を向けるというのは今までなかったし、森林という公共財に反対する理由はなかった。（この段階でキーパーソンが移住することに決めた）（拠点a）
 - 10年前：勝手にやっているとと思われるように気を付けていた。現在：同じ日に同時にイベントが自然発生的に起きているようになっている。（拠点h）

多様・固有なアクティビティ例 1

- **民間だけだと怪しまれる。行政側に幹事になってもらう（拠点b）**

多様・固有なアクティビティ例 2

- **補助金に頼らない、できる限り民間主導で行う（拠点g）**

プロジェクトの実装・推進

エコシステムを形成する上でのプロジェクトを実装。マイルストーンを設定しプロジェクトを推進する基盤を整え、動かす

トライリスト

■ 定例ミーティングを意思決定サイクルの中心に設計する

- 1週間を1サイクルとし、週1回の打ち合わせの中で必ずアクションに落とした（拠点b）
- 月1回の打ち合わせでサイクル回す。ミーティング後には必ず飲み会を設定し、ミーティング内で決まらなかったことも飲み会で決める（拠点c）

■ 意思決定をできるだけ迅速に行う（チームにも文化として根付かせる）

- 自分自身も意思決定はできるだけ早く行うようにした。チームメンバーにも失敗の責任は自分が背負うので、意思決定のスピードは重視（拠点g）
- 週1回の打ち合わせの中で必ずアクションに落とした（拠点b）

■ 初動では人や時間、お金などの資源を分散させず、核となる活動に注力する

- 11個のプロジェクトを立ち上げたものの優先度付けを行い、最終的には2-3個に絞った（拠点b）

多用固有的なアクティビティ例 1

- 対面の場を重視、基本的に意思決定は必ず対面の場で行う（拠点b）

多用固有的なアクティビティ例 2

- オンラインの場を重視、オンラインでも意思決定ができるように場を設計する（拠点g）

エコシステムにおける実装可能なプロトタイプ(小さく早くやってみることを定義・実装し、改善サイクルをまわす

トライリスト

■ 定期的にユーザーからのフィードバックを得る仕組みをつくる

- 自分自身もスタッフに対してフィードバックを行うが、お客さんからスタッフにフィードバックが直接届くようにしている（拠点g）
- プロのインタビューアが客観的な立場で質問を訊くことにより仮説が明確になった（拠点d）

■ 手間をかけずに複数のバージョンをつくってみる

- まずはイメージをつけてもらいフィードバックを得るために手書きのプロトタイプを作成してみた（拠点g）

■ プロトタイプへのネガティブなフィードバックから目を背けずに前アクティビティに立ち戻る

- 試しに店頭に飾ってみたところ、近隣住民からクレームが殺到。表に現れていない地域のしきたりを理解することができた。フィードバックを得て別のかたちで実現することができた（拠点h）

エコシステムの形成

プロトタイプフィードバックを踏まえ、エコシステムの構築をコンソーシアムの拡大・推進を通じて加速し、世に届ける

トライリスト

- **関連情報をキャッチアップできる状態は整え、コラボレーションの可能性を探る**
 - チームメンバーである副社長はプロジェクトの中で渡り鳥のように他のコミュニティを行き来する存在。アクティブに動き企業との連携・サブプロジェクトの組成に寄与していた（拠点g）
- **公共性を担保したエコシステムを構築する**
 - 銀行ルールと同じく誰も5%株を持たないことが重要。誰かの企業となってはいけない。市町村から支援を得るためであり、森林が公共財であるため（拠点a）
- **投資対効果を意識しながら、持続的な好循環を設計していく**
 - 基本的には公的資金は使わない。マーケティングも口コミでの伝播を設計し最小限に抑えている（拠点g）

多様・固有なアクティビティ例 1

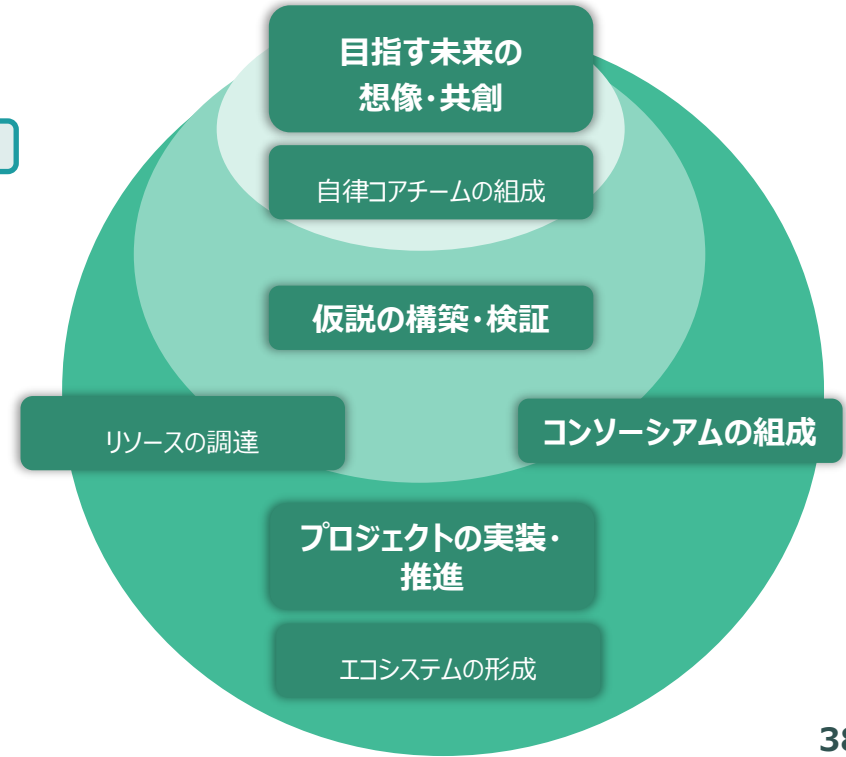
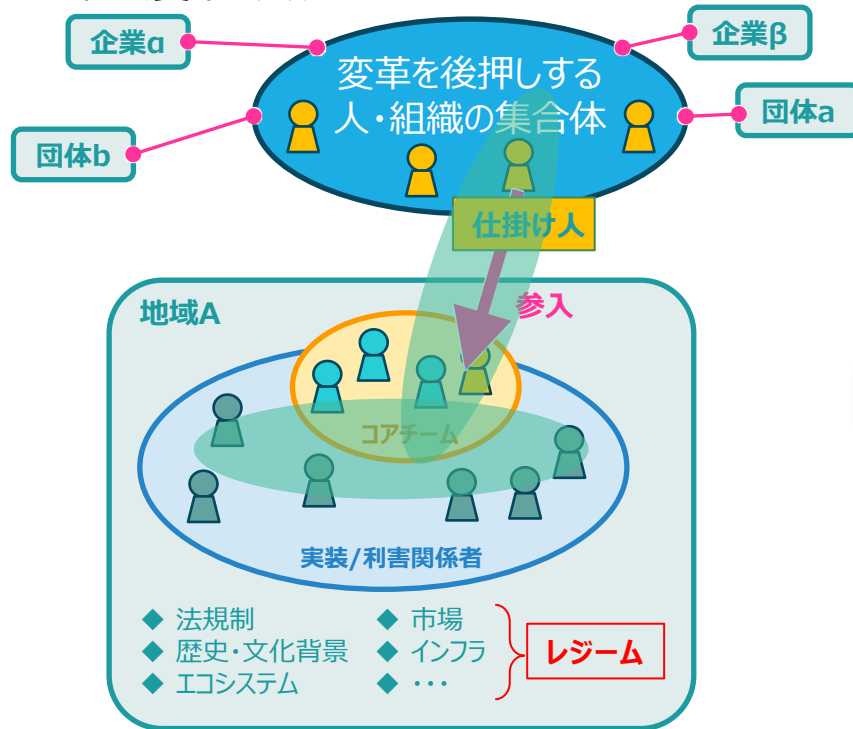
- **ベンチマークを徹底的にリサーチし、横展開できるモデルを構築する（拠点g）**

多様・固有なアクティビティ例 2

- **先行事例をあまり参考にせず、地域性があるためモデル化はしない（拠点h）**

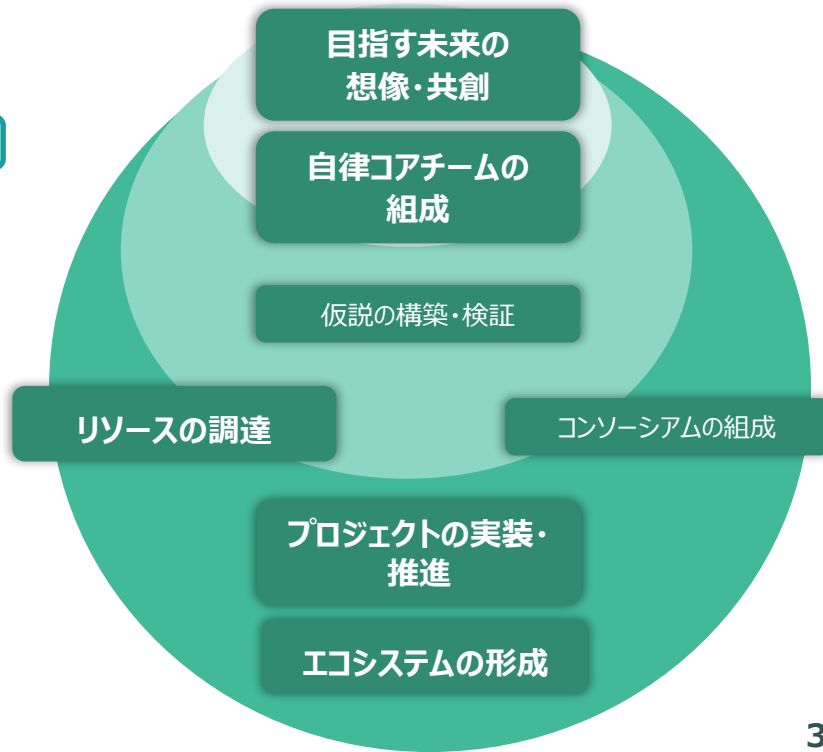
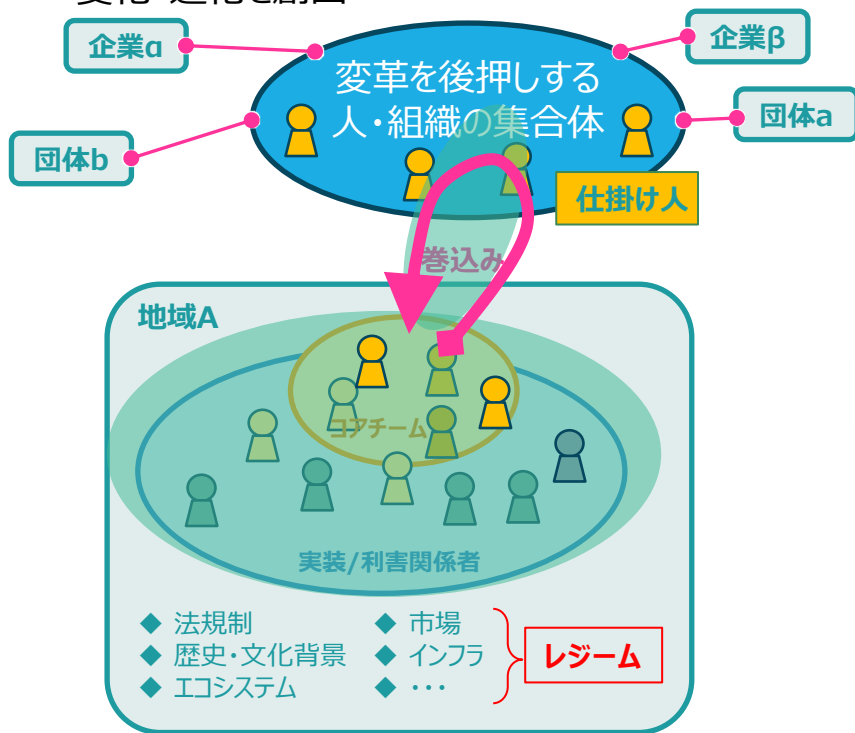
4.2-3a 外部仕掛人・大学起点／社会課題の地域課題・自分事化パターン

- 公的研究開発事業を活用、外部人材が地域に入り込み、社会課題を地域課題、住民個々課題化
 - サイエンスベース、大学がハブになることで自治体、医療・福祉関係者等が一体となり、仮説検証を協働し、民意で社会変革を実現



4.2-3b 超先進地域課題をテーマにした内発・地域一体/戦略化パターン

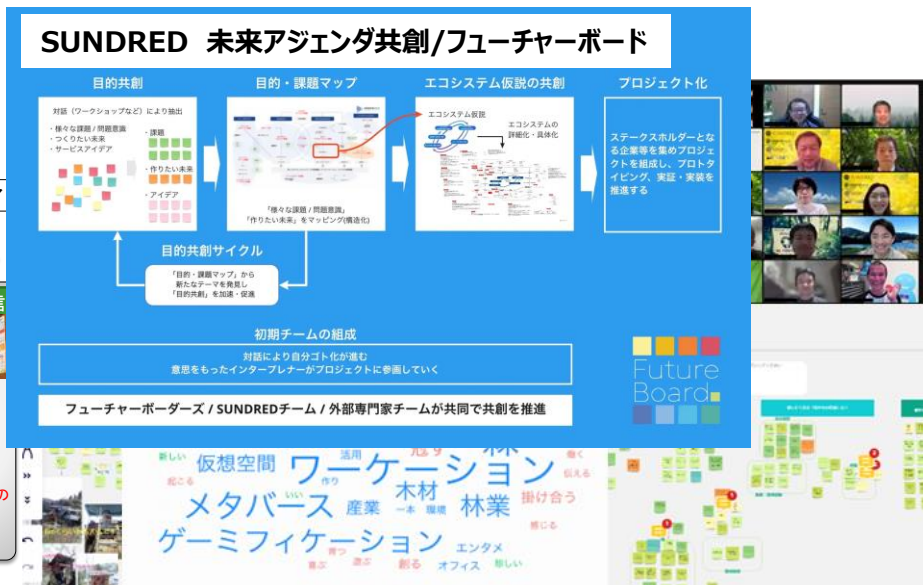
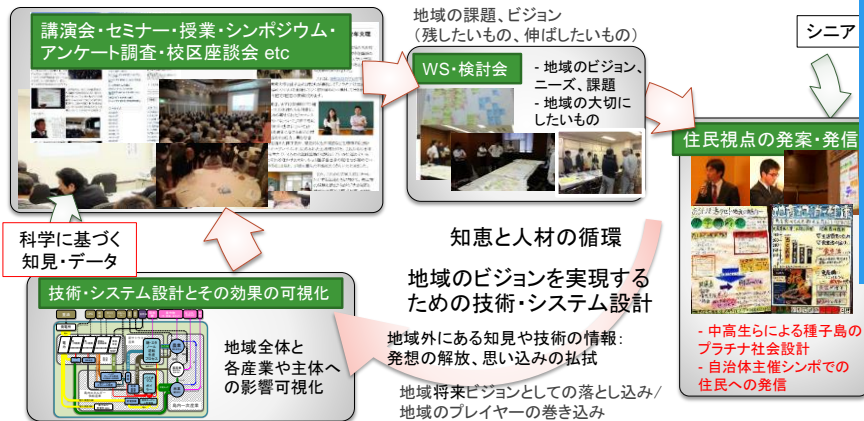
- 課題先進国日本、その数十年先の超課題先進地域の危機感を起点・逆手に、求心力・アイデア創発
 - 地域内の官産学民の一体・連動PJTづくり（特に次世代層に着目）と課題解決志向を持つ外部人材巻き込みで変化・進化を創出



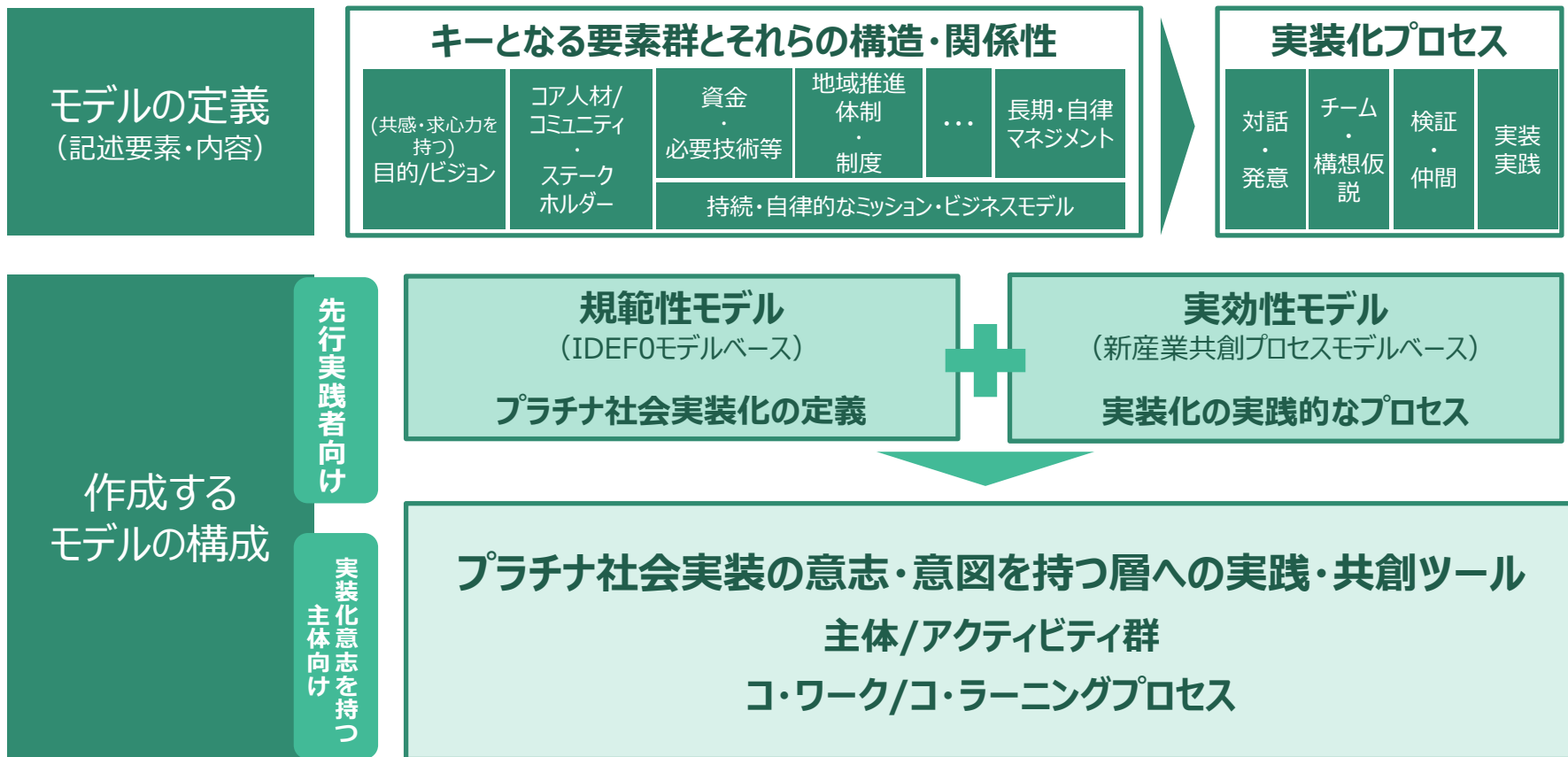
4.3 コ・ワーク/コ・ラーニングプロセス

- 未来ビジョン・アジェンダづくりを起点に、実装体制・プロセス/アクションをVer.1ベースで共創・実行する
 - 主観（自分・地域問題・課題）と客観/相対（外部目線・ファクトベース社会問題・課題/地域状況俯瞰）、多様なコミュニティでオープン・継続的に対話を実践し、未来への課題・アジェンダをあぶり出す、共創する
 - － 問題・課題の捉え方の深化・進化と想い共有化、主観・客観の共進化
 - その具現化に向け、Ver.1をベースにアクションラーニング・相互の学び合いと、具体的な実装の実践体制・プロセスを建付け、実行する
 - － 蓋然性の高い試行錯誤を実行

COI-NEXT 東大Co-JUNKAN拠点；種子島実践例



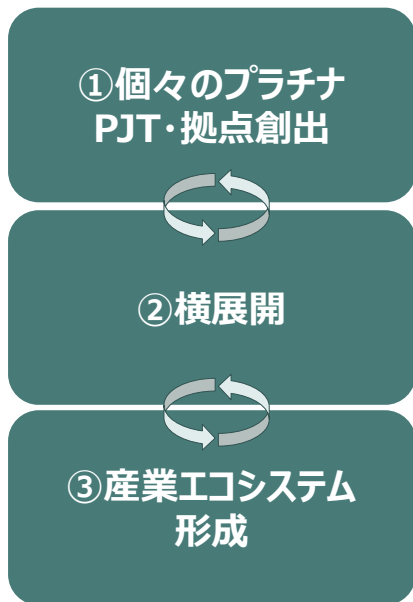
補足 ; モデル要素と全体構造



5.拠点間連携・相乗化シナリオ・モデルと 最終目標に向けたロードマップ°

5.1 プラチナ新産業創出具現化へのステップ

- 既述（1.1.）の通り、本モデルは「プラチナ新産業創出」への第一歩
- その具現化に向けては、①個々のプラチナプロジェクト・拠点創出（主にVer.1活用場面）②横展開③産業エコシステム形成、のステップが必要



- Ver.1を共通言語、下敷きに、まずは実践チーム（仕掛け人）が、地域コアチームとのコ・ワーク、コ・ラーニングを推進
 - 外部人材、若者の巻き込みが鍵と想定
- 地域での自律的な取り組みに向け、人材育成、地域事業として建付け
- 優良事例への共感者を増やし、ネットワーク・コミュニティ化
 - 必ずしもトップダウンに頼らないー勿論、トップがその気になる仕掛けも行う
- Ver.1を活用し、地域特性に応じたエコシステム形成を促進ー仕掛け人が入り込みコアチームを形成・協働
- プラチナ新産業イニシアティブにより、（個々では担えない）基盤/プラットフォーム型事業を構築、地域特性に応じたアプリケーション事業を仕掛け人・コアチームが共創
- 加えて、拠点間の情報・アセット共有・相互乗り入れによりスケール化を推進

※①②③は必ずしもリアに進展するものではなく、相互に行き来しながら、相乗・スケール化していく

5.2戦略アクション－実装加速と横展開、拠点間連携/相乗化へ

- モデルVer.1の本質、構造にも鑑み、既述ステップ・アクションを相乗的・加速度的に推進していくための当面の戦略アクション－資源・時間を最大限活用し、レバレッジ、加速させる－を次のように設定

<基盤づくり>

1-1 ; コアとなる人・チーム（モデルVer.1の理解者、実践牽引者）づくり

- まずは現チームが核となり、仕掛け人＋コアチーム予備軍の炙り出し・覚醒、育成（①、②アクションにて実施）

1-2 ; プラチナ社会実装化/産業共創の価値・効果の可視化と周知

- 既存事例をベースとした推計、プラチナ産業関連モデル開発などにより、社会・地域等・個々人にとっての価値を
- 周知により、優良事例横展開、新たな取組みを促進、加えて実践者コミュニティを形成

<具体的な実装化・産業創出>

2-1 ; 実装化アクションの深化・進化と実践者/実践地域等の拡大

- 実装化、横展開への阻害要因を特定、その突破策を設計・共有－今年度記述のポジティブアクションに付加
- 成功事例、モデルVer.1を広く周知しつつ、意志を持つ実践者/地域等をコミュニティ化

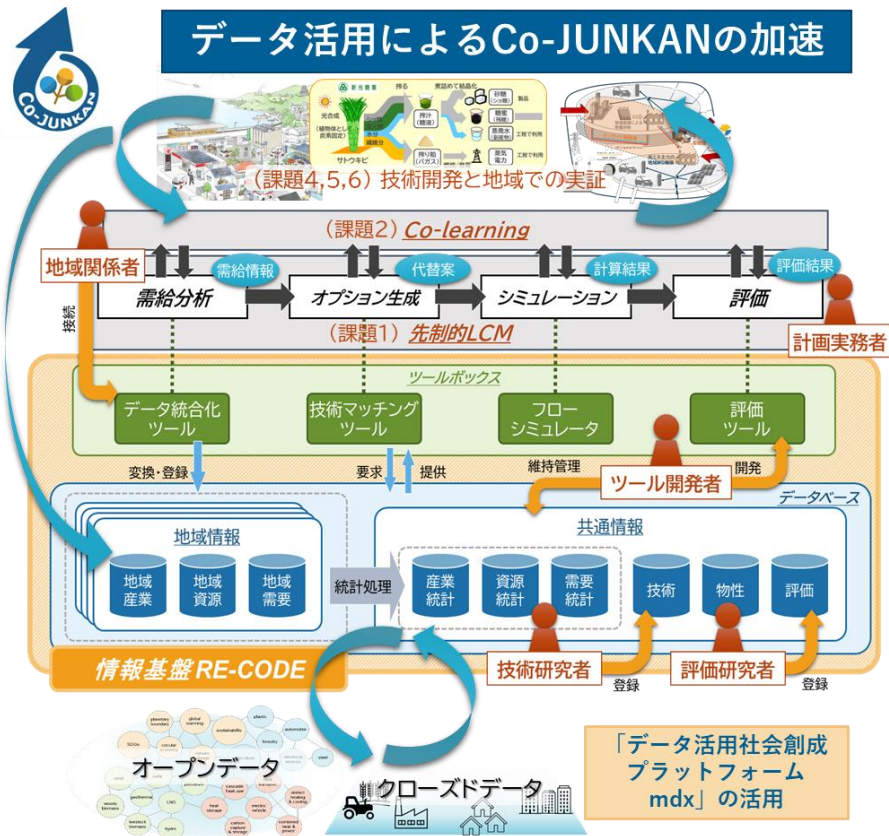
2-2 ; 新産業エコシステム構想・形成の型づくりとトライアル

- プラチナ新産業エコシステムの型づくり－森林産業イニシアティブモデル、SUNDRED新産業エコシステムモデル
- エコシステム構想を踏まえた個々のプロジェクト・事業の推進と相互連携・相乗化、外部連携の推進

参考 ; コアとなる人材モデルイメージ – SUNDREDインタープレナーコンピテンシーモデル

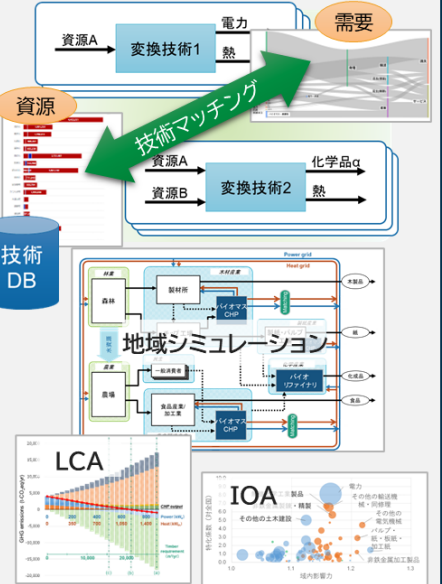
- SUNDREDでは活躍している「インタープレナー」の観察をもとに、26個のコンピテンシーを定義し、育成、コミュニティ化を推進
 - 「社会起点」「対話力」「共感する・される力」「コンセプト構築力」「エコシステム構想力」等が、特徴的
- ※) 近々、『インタープレナー協会』を設立

新産業共創プロセス	インタープレナーとしてとるべき行動	コンピテンシー	
目的の共創	<ul style="list-style-type: none"> ・社会課題や「実現すべき未来」について対話を行う ・対話を通じて目的の解像度を高める 	社会起点	社会課題や社会のあるべき姿に関心を持ち、それを起点に企業や個人が何をすべきか考える
		好奇心、面白がる力	新しいものの見方や話題になっていること、テクノロジー、他者の活動等について興味を持ち、聞いたり調べたりする
		本質の探究	表層的に伝えられている内容にとどまらず、一次情報にもとづいて深く考え、本質を理解する
		目的・課題の設定	具体的な行動につながるレベルの、解像度の高い本質的な目的・課題を設定する
チームの組成	<ul style="list-style-type: none"> ・共感し、共感され、自分ゴト化する ・目的を共有するチームを組成する（チームに参加する） 	対話力	特定の価値観に囚われずオープンに、立場を超えてフラットに意見を交換し、新しいアイデアを産む
		メタ認知	自分自身のメンタルモデルと、他者のメンタルモデルを理解し、比較した上で自分自身について客観的に理解する
		共感する力	他者の意見やその背景にある考え方から、興味ある部分、面白いと思う部分、共感する部分を特定する
		共感される力	自分の意見やその背景にある考え方を、他者の気持ちに響くよう適切な方法で伝え、共感を得る
エコシステム 仮説の共創	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を実現するための仕組みを考える ・社会にあるリソースを理解し、エコシステムを構想する 	リソース（自社・自己）の理解	自社および自分が動かせるリソース、その動かし方を正しく理解する
		リソース（他社・他者）の理解	自社および自分が動かせるリソースだけでなく、世の中にどのようなリソースがあるのか理解する
		コンセプト構築力	本質的な因果関係やシステムの理解にもとづき、目的の実現、課題の解決のためのつながりのコンセプトを構築する
		エコシステム構想力	自社・自己、他社・他者のリソースを組み合わせ、目的の実現、課題の解決のためのエコシステムを構想する
共創会の設立	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト（共創会）をデザインする ・社内・社外のリソースをオフィシャルに巻き込む 	ビジョン、ナラティブの発信	目的の実現、課題の解決のビジョンを、説得力を持つ自らの言葉に落とし込んで発信する
		つながりの構築	巻き込むべき他者（他社の中の個人等）を特定し、友人関係・ソーシャル等を積極的に活用してつながりを構築する
		プロジェクトデザイン	エコシステムの構築に向けたアプローチを整理し、プロジェクトのデザインに落とし込む
		交渉力・調整力	他者の立場、本音・建前、個人としての考え、意思決定のために必要な要件を理解した上で、交渉・調整し、巻き込む
事業体の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・エコシステムの中核となる事業体を創出・強化する ・自社の事業機会を特定する 	事業機会・優先順位の特定	エコシステムにおける事業機会を把握し、事業同士の関係等から、中核（トリガー）となる事業を特定する
		事業計画の作成	事業機会を実現するための具体的な事業計画を作成する
		事業の構築	スタートアップや新規事業等、事業の創出・構築の方法を理解し、最適な方法で事業を創出・構築する
		事業（事業体）の強化	事業の成功のための外的・内的要因を把握し、エコシステムの構築とあわせて事業（事業体）を強化する
エコシステム 構築の加速	<ul style="list-style-type: none"> ・自社の事業機会を獲得する ・他社と連携し、エコシステムを実現する 	システム思考	全体のシステム（エコシステム）を構想・理解した上で、自社・自己に最適な形で事業を構築する
		レジリエンス	当初の前提に固執せず、必要に応じて軌道修正しながら、良い方向に向けて柔軟に対応していく
		やり切る力	情熱をもって、粘り強く、ロジックと共感に基づき、他社・他者も巻き込み、結果が出るまでやり切る
		ハビネスの共有	プロジェクトを通じて世界が良くなることを実感し、関わる人を幸せにし、自分も幸せを獲得し、ハビネスを共有する
全てに共通		越境思考	「会社人」ではなく「社会人」の視点を持ち、あらゆる組織の壁を越えて行動する（壁そのものが存在しないと考える）
		目的志向	誰かに言われたからやるのではなく、自分自身の目的意識に基づき、目的の実現のために行動する



各ツールの到達目標

- 資源需給分析**
地域の資源や需要の現状や未来の状態を即座に可視化
- オプション生成**
地域と技術の相互理解とマッチングを促進
- シミュレーション**
技術者との共創により新興技術の複合システムの地域分析にも対応
- システム評価**
社会変化や不確実性を考慮したLCA, MFA, IOA



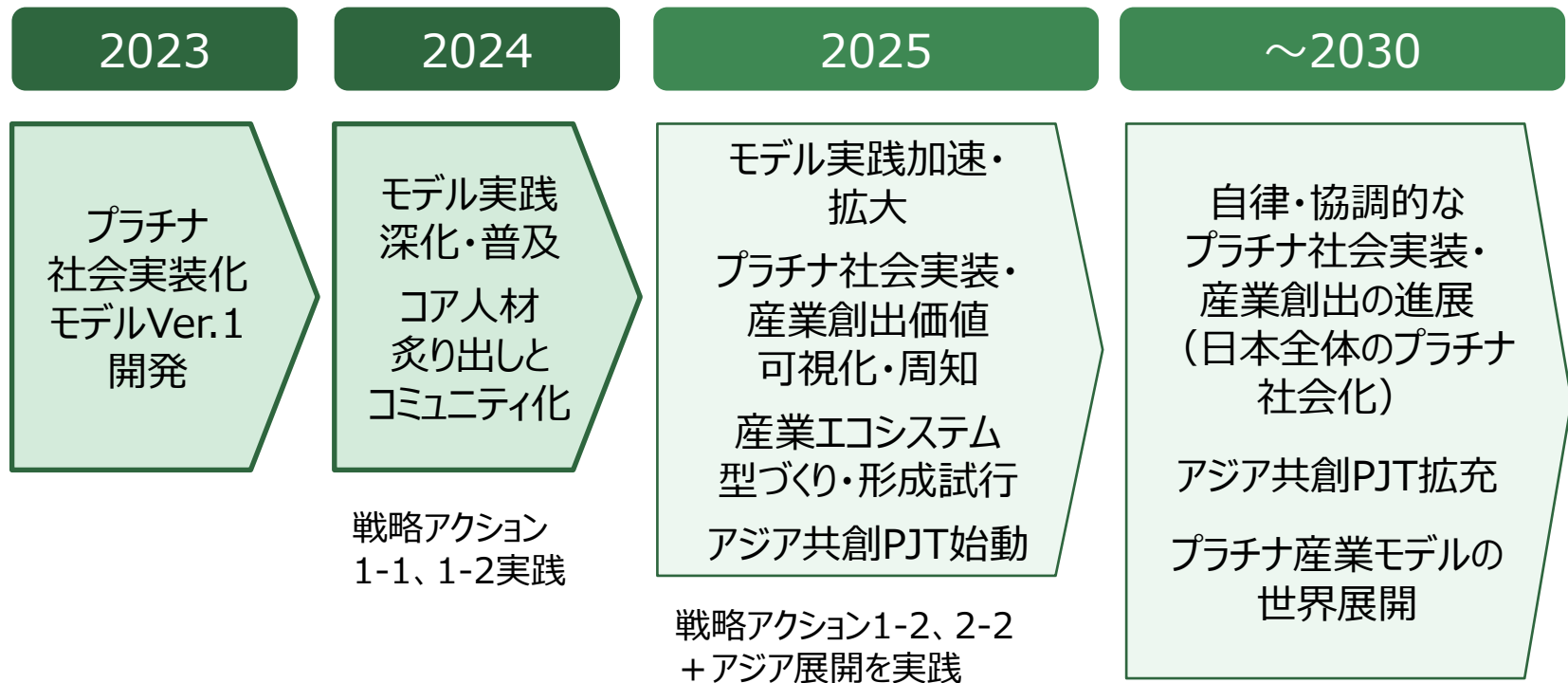
- 他課題の推進を加速しながらデータ集積
- 地域システム設計のDX基盤として技術の社会実装のハードルを最小化

5.3 次年度活動の重点と目指す姿へのロードマップ°

- 先への展開・レバレッジを勘案し、戦略アクション1-1、2-1を主対象として、2024年度重点アクションを次のように設定する
- ① 本年度チーム（東大プラチナ、SUNDRED）を核に、モデルVer.1をベースとしたプラチナ社会実装化/産業創出プロジェクトの立上げと産業エコシステム構想・形成を試行
 - 既始動中の「プラチナ森林産業」を軸に据えて、プロジェクトの立上げと産業エコシステム構想・形成を試行
 - なお、諸条件（意志、フィージビリティ、スケール化ポテンシャル）も踏まえ3~5程度のプロジェクトを構想・設計し、トライアルを併行する（具体的な立上げは1~2目途）
- ② 上記活動を通じ、プラチナ社会実装・産業共創拡大へコアとなる人材・チーム（主に「コアチーム」）の炙り出しとコミュニティ化（15名程度）、モデルVer.1共有・共進化を図る
 - 今年度整理したポジティブアクションに加え、実装化、横展開への阻害要因を特定、その突破策を設計・共有
 - 「仕掛け人」については、別途プラチナ構想NWで立ち上げる地域社会実装フォーラム（産官学民コミュニティ）、COI-NEXT（文科省/JST）、SUNDREDインタプレナーコミュニティ（後述）などと連携していく
- ③ 上記の発信により「プラチナ社会実装化モデル（Powered by 日本財団殿/プラチナ構想NW）」の日本全体への普及と実装への取り組み喚起を図る
 - まずはプラチナ会員約400団体・名（うち、自治体首長約220名）を対象とする

5.3 次年度活動の重点と目指す姿へのロードマップ

- 本年度成果、次年度アクションを活かしつつ、3年後、最終的に目指す姿（次頁）の具現化に向け、以下のようなロードマップで、プラチナ社会実装化・プラチナ産業創出に邁進する



本事業により実現を目指す未来の姿

<3年後目途>

- モデルVer.1を活用した活発な新たな実装、既拠点スケールアップ・連携、プラチナ新産業創出が進展・加速する
- プラチナ社会実装・産業創出モデルのアジア展開が始動する – アジア発モデル開発へ

<最終的に目指す姿 – 2030年目途>

- 各拠点/産業が持続・自律的な進化を遂げ、かつ相互に協調・相乗化し、日本全体がプラチナ社会になる – より善い未来を常に探索し、変化・進化を続ける
- 21世紀、それ以降の「地球・社会・人」が目指すべき未来づくりへ、「課題解決先進国」日本が、アジアと協調、共創型リーダーシップを発揮し、その構想・具現化を牽引する
 - 日本、そして世界における次世代の基幹産業を、定常・継続的に、構想・共創、実装する